

第45回労働リーダーシップコース報告

金属労協 組織総務局

開催時期を冬1月から秋10月に変更して初めての開催
秋の京都で研鑽に励み、受講生39名が全員無事修了。修了生は通算1543名に。

雪がちらつく中の開校式が定番だった労働リーダーシップコースが今回から様変わりした。開催時期を冬まっただ中の1月から初秋の10月に変更したためである。

金属労協(JCM)が主催する次代のユニオンリーダー教育の場である伝統の労働リーダーシップコースは、2013年10月7日から19日までの

12日間、京都・関西セミナーハウスで開校した。コースには、北は栃木から南は広島まで39名の受講生が参加。今回から平田校長の後任として新たに第3代校長に就任された香川孝三校長(大阪女学院大学教授)をはじめとする他4名のゼミナール担当講師指導のもと、2週間にわたるコースを受講した。

第45回コースの特徴

第45回コースの特徴を3点に絞ると、その1点目は、先に記したように開催時期の変更である。第1回コ

ースは1969年12月に開催、以降第2回から前回第44回まで毎年冬1月に開催してきたが、今回から10月に変更しての初めての開催となった。修了生からは、「厳寒の雪降る1月の方が辛かった分、思い出にも残る」との声もあったが、様々な観点から、より参加しやすくするため変更となった。

2点目は、女性参画の推進である。金属労協の取り組みでも、女性参画を進めているが、45年間の労働リーダーシップコースの歴史で初めて、女性が受講生のまとも役である級長に選ばれた。全トヨタ労連の原村恵子級長を中心に、毎日昼の休憩時間に行う実行委員会では、実行委員全員で級長をサポートし、受講生の健康状態の管理や、コースの運営企画を検討するなど、運営全般を担った。3点目は、今回初めて設置した自主ゼミがあげられる。第44回コースから開催期間が2週間半から2週間

に短くなったことで論議する時間が不足することのないよう、ゼミ生だけで活発な議論をする時間を設けた。2週間で結論を出すのは至難の業であるが、少しでも議論ができる環境づくりが重要であると考えている。

その他、講義やゼミの合間に、京都の文化や自然に触れる機会として、茶室体験や座禅、鞍馬山散策を行った。鞍馬山散策では、鞍馬寺で鞍馬山の自然についてお話を伺った後、山を越え、貴船神社まで足を延ばした。貴船神社では、「水占みくじ」という境内にあるご神水に浸すと文字があらわれる「おみくじ」を引く受講生の姿も見られた。1週目の週末には希望者のみ、関西セミナーハウスの裏手にある比叡山に登山に出かけた。1月の雪の登山とは趣も異なり、すがすがしい風が吹く中、若干息をはずませながら、約3時間かけて山頂から延暦寺根本中堂まで歩き通した。また、コース期間中、セ



開校式で受講生を激励する香川校長

ミナーハウス内の能舞台で行われた薪能を鑑賞する機会も得た。このように、座学だけでは得られない、体験から学ぶプログラムもこのコースの特徴のひとつである。

開校式

10月とはいえ最高気温30度という暑さの中、10月7日午前10時から開



校式を行った。篠笛の雅びな奏楽の後、式辞に立った香川校長は、「ゼミナールや講義を通して職場や組合の課題の解決策を探っていくが、わずか2週間のコースの中で正解は簡単には出てこないかもしれない。しかしそういう勉強、分析のきっかけを持っていたら、このリーダーシップコースは成功だと思う。同じ金属の仲間達との同じ釜の飯を食べ、絆を作りながら、これから2週間、何らかの成果をつかみ取るよう健闘を期待したい」と激励した。

講義とゼミナール

主催者を代表して挨拶に立った西原議長は、「金属労協は、結成当初から組合役員の教育を重視し、このリーダーシップコースを継続実施している。グローバル経済が加速する中で、ある面、変化が常態化する年である。そういう中で、労働組合は、新しい発想のもと、これからの時代を切り拓いて行かなければならない。ぜひ、皆さんのステップアップの場としてこのコースを大いに活用していただきたい」と激励した。

受講生は12日間にわたり、4つの柱にもとづく講義を受講した。第1の柱「自分の歴史的背景を学ぶ(縦)」では、「戦後労働運動と労使関係の変遷」「国際労働運動論」。第2の柱「自分の立っている場について学ぶ(点)」では、「労働法」「労使関係論」「労働経済論」「組合戦略づくり」「統計学」「男女共同参画と多様な働き方」「労働組合のための財務分析入門」。第3の柱「自分の住む世界の拡がりについて学ぶ(横)」では、「国際経済論」「組織は人・人は組織」。第4の柱「自分の生きる基礎について学ぶ(深)」では、「ファンタジー・グループ」「職場のメンタルヘルス」の13に及ぶ体系的な講義を受けた。その他、特別プ



ファンタジー・グループ

ログラムとして、開校講演「これからの労働運動とリーダー像」(西原議長)、金属労協講演「金属労協の運動課題」(若松事務局長)、特別講演「経営と人間」(青木征彦日産自動車監査役)を学んだ。

また、受講生は5つのゼミナールに分かれ、担当教授の指導のもと、産別・単組の枠を超えて金属ものづくりという共通の土俵で、職場や組合における課題について経験交流と解決策について論議した。最後には、半日を使って全体でゼミ別の発表を行いゼミの成果を全員で分かち合った。

閉校式

閉校式では、香川校長の式辞のあと、受講生39名全員に香川校長か

ら修了証が授与された。この後、若松金属労協事務局長と地元ブロックを代表して山崎関西ブロック代表、そしてゼミを担当された香川校長、石田光男副校長・中田喜文・富田安信・上田眞士各運営委員(同志社大教授)がそれぞれはなむけの言葉を贈った。最後に受講生を代表して級長を務めた原村恵子さん(全トヨタ労連)が、コースで学んだ成果をこれからの活動で活かすと共に、39名の友情の絆を更に深くしていくことを誓った答辞を述べ閉校した。第45回までの修了生は計1543名となった。なお、次回第46回は明年10月に京都・関西セミナーハウスで開校予定。



閉校式で答辞を述べる原村級長